

第11回本町田ひなた小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2025年7月11日（金） 9：30～11：07	
開催場所	本町田ひなた小学校 ランチルーム（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	多田委員、渡辺委員、渡邊委員、安藤委員、黒崎委員、高柳委員（代理：熊澤さん）、手塚委員、野口委員、小原委員、湯目委員、越水委員、本城委員、○隅田委員、◎清水委員、大谷委員（◎：会長、○：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

学校教育部長 本日はお忙しい中、新たな学校づくり基本計画推進協議会にご出席いただき感謝申し上げます。

本町田ひなた小学校の新たな学校づくりでは、2021年12月から全12回に上る新たな学校づくり基本計画検討会での話し合いが行われてきた。そして、本協議会においては、2023年5月から3年にわたり、通学路の実地調査や、統合前の児童交流をはじめとした様々な事柄についてご検討いただいていた。こうした委員の皆様のご協力のもと、本年4月に本町田ひなた小学校を無事に開校することができた。これもひとえに皆様のご尽力のおかげである。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

本町田ひなた小学校が開校し、仮校舎での学校運営が行われていく中で今後見つける課題や、検討すべき事項が新たに見えてくることもあるかと思う。また、これから建設が始まる新校舎が完成し町田第三小学校が合流する2028年度に向けて、新しい通学路案や、これまで以上に学校を地域の活動拠点としていくことなど、考えていかなければならない課題もまだまだ山積みである。委員の皆様においては、新校舎の開校と町田第三小学校の合流に向けて、また、町田市内における地域活用型学校の先駆けとして、ご意見を頂戴し、お力をお借りできればと思っている。

今年度は、これまで委員としてご尽力いただいていた方々に加え、新しく委員になっていただいた方もいらっしゃる。引き続き、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

1 新たな学校づくり基本計画推進協議会について

新たな学校推進課 （資料1－1 説明）

〔 委嘱書交付 〕

（会長・副会長選任）

２ 基本計画推進協議会の検討事項について

３ 報告事項

（１）開校後の学校や児童の様子について

委員

開校してから３か月の子どもたちの様子について話したい。始業式は、新たな仲間との出会いということで、緊張気味で集まった。一人だけで他の学校の子どもの中に入るのは勇気がいるため、最初は旧本町田東小からの子どもと旧本町田小からの子どもをそれぞれ集め、そこから新たなクラスの列に並ぶよう配慮した。先生方も緊張気味だったが、担任と子どもたちの初めての出会いの場を迎えた。

入学してすぐの４月に、学校統合にあたって保護者の方々が心配する通学の安全を守るべく、１年生の横断歩行訓練を実施した。

１年生を迎える会では、１年生が２年生からもらったメダルをかけ、６年生が作った花のアーチを通して体育館に入場した。体育館で各学年が出し物を発表し、最後は全員で合唱して大いに盛り上がった。

５月２４日の開校式典には５・６年生が出席し、来賓の方々に向け、「ひなたっ子宣言」と題した呼びかけを行い、「本町田ひなた小学校を笑顔溢れる学校にします」と力強く宣言した。６年生は「みんなが、みんなで、みんなのために」を掲げ、初代６年生として委員会活動等を前向きかつ活発に活動してくれている。

本町田東小ではこうだった、本町田小ではこうだったなど子ども同士が前の学校を引きずり、生活のちょっとした違いがけんかの種になることは避けたい。そういった違いがあるからこそ、いろんな意見が出て、もっと楽しいことが起こるようにしたい。そういった理由から縦割り班の活動を大事にしている。

６年生は１年生、５年生は３年生、４年生は２年生の面倒を見ている。例えば体力テストの２０メートルシャトルランでは４年生が２年生を一生懸命サポートしていた。上級生は自分たちが役に立っているという寄与感を、下級生は上級生を尊敬する心を縦割り班の活動を通じて育てようと思っている。

６月２７日のひなた祭りでは３年生以上が各クラスでお店を出した。リハーサルでは３年生と５年生がお互いのお店に行き、お店を成功させるためのアドバイスを出し合った。最後に３年生がお礼の手紙を自主的に５年生に届け、５年生が感動していた。本番当日は子どもたちも先生も一生懸命取り組んだ結果、第１回のひなたまつりは大いに盛り上がり、子どもたちが本当に喜んでいた。

１・２年生の忠生公園への遠足、３・４年生の八景島シーパラダイスへの遠足においても、旧本町田小出身、旧本町田東小出身に関係なく仲の良い雰囲気であり、５年生も協力し合って調理実習をしていた。これは子どもの素敵な能力だと思うが、本町田ひなた小の子になっている。６年生と１年生の縦割り班では、「希望の森ツアー」

と題し、希望の森を6年生が1年生を案内し、ルールを教え、一緒に調べもの学習をした。

児童へのアンケートで、本町田ひなた小になって楽しかったことについて聞いたところ、ベスト3は「友達ができた」「中休みが楽しい」「朝遊びができる」であった。中休みが楽しいというのは人数が増えたことが要因だと思う。朝遊びは校庭が一番安全ということで7時50分から8時10分まで遊んで良い形をとった。理由としてはバスで到着する子どもたちが7時49分か、8時14分に着くが、学校の本来の登校時刻は8時10分から20分の間で7時49分に着く子どもたちが待つ時間ができてしまうためである。体育委員を中心に子どもたちが話し合い、教員もその支えとして協力して決めた。子どもたちにとってみれば、自分たちの生活を自分たちで充実させることが出来るということに結びついている。

アンケートで子どもたちがやってみたいことの第1位は学校かくれんぼであったため、いつやるのかを子どもたちと話し合っていて決めていきたいと思う。第2位のひなた祭りはもう終了しており、第3位の運動会は必ずやる。ベスト3の全てに、自分がやりたいことや学年でやりたことではなく、みんなでやりたいことが入るのは素敵だと感じた。

本町田ひなた小の一人として頑張ろうと心に決めたことは何ですかとアンケートをとったところ、「勉強」、「下級生の手本になる」、「苦手なことにも挑戦」といった内容が多かった。先生たちも、「苦手なことを頑張ろう」、「それは手本と言える行動かな」などの形で子どもたちに働きかけており、その言葉が子どもたちに効いている。優しく頑張る屋の子どもたちに育てて欲しいと思っているが、子どもたちはすでにそのように成長していると感じている。

最後に、本町田ひなた小をどんな学校にしたいか聞いたところ、「楽しい学校」「みんな仲良しで明るく元気な学校」であった。この希望を叶えるため、教職員が一丸となって、日々子どもたちの指導に当たっている。

今年度のキャッチフレーズは、先生たちも子どもたちも「何事も全力でいこう」「最後まで諦めずにどんどん頑張っていこう」「心と心をつないでいこう」としている。子どもたちが、「仲間が増えるって面白いな、楽しいな、できることがいっぱいになったな」と感じてもらいたいと思っている。これを続けていくことで、町田第三小の子どもたちが合流する際に、早くおいでよ、もっと楽しいことを教えてよ、ということでもっと新しいことをやろう、とみんなで言い合える子どもたちの関係が築かれると思っている。

委員の皆様からも4月以降の変化や日々感じていること、子どもたちの様子や町田第三小との合流に向けて気になっていることをお一人ずつ順番にお話しいただきたいと思う。

委員

本町田ひなた小がすばらしいスタートを切れたことを、町田第三小の校長としてもうれしく思う。交流を通し、2028年度にニューひなた小としてみんなで新しい活動ができればと思う。

実は今朝も児童が転んで救急車で運ばれた。大怪我ではなかったが、通学、登下校ということが大事な一つのポイントだと思っている。学区域が広がれば、それだけ子どもたちの歩く距離も長くなるため、対策をしなければならない。

地域の方の見守り体制は非常に献身的かつ、人数も多く、とてもありがたく思っている。しかし、見守りの方が怪我をすることがあった。見守りに参加してくださっている方々は、自治会や地域の組織、または個人として参加していただいているため、いざというときの補償が一律にできていないという問題がある。

9月からそれぞれの立場で見守りをしてくださっている方々に集まっていただき、補償の問題や、見守りをするうえでの困りごと、通学する児童の様子やどのような指導をしているのかを連絡し合うような場を設けていきたい。委員の方もぜひ参加していただければと思う。

委員 本町田ひなた小の新校舎が建つ旧本町田東小の隣の開進幼稚園で理事長をしている。旧校舎の体育館が半分なくなっている姿を見て工事の規模の大きさを実感した。工事現場は周辺に小学校、幼稚園、保育園が並んだ状態であるが、大勢のガードマンに立っていただき、配慮をしていただいているため、今のところ全く問題ない。新しい学校が建つことを楽しみにしている。

委員 本町田小では地域の人間として、例えば算数教室や昔遊びなどで関わってきしたが、新しく本町田ひなた小となり、どのように関わっていくことができるのか戸惑っている。実際に子どもたちに触れたり、見たりして理解する部分が多かったため、地域の人間がどんどん本町田ひなた小に関われると良いと思っている。

委員 ひなたまつりで子どもたちの顔を見ると、とても明るく、みんなが協力し合っていた。旧本町田小出身、旧本町田東小出身かというのは関係なく、一緒に楽しんでいたのが強く印象に残った。まだまだこれからというところではあるが、これを見ただけで安心できる子どもたちだと感じている。

委員 今は町田第二地区協議会の事務局長として活動している。先ほど通学路見守りの補償問題の話があったが、例えば事故が起きた場合は町田市の市民協働推進課に電話を入れると話が進むと思う。事前の登録は必要なく、これを使ってもらえれば良いと思っている。

一方で、別の方は町田警察と連絡をとって補償についてやりとりしており、そちらの方が補償の内容が良いという話もあるので、どちらを取るのかについては考えていただきたい。

委員 朝、仕事か休みのときは学校の周りの見守りをしているが、木曽団地東の交差点を見ていると、町田第三小の子と本町田ひなた小の子が入り乱れている。信号もあるが自転車が多く危険に感じることもあり、見守りで立っているだけで抑止効果になると思っている。本町田ひなた小と町田第三小が一緒になった際に、また人数が増えてくるので、危ないと感じている。

話は変わるが、町田第三小で7月の海の日に盆踊り大会を実施する予定である。去年、おとしし辺りから、町田第三小だけでなくいろいろな学校の子も参加している。

今年もよろしく願いしたい。

委員

私は本町田に生まれ、本町田で育った。町田第三小では、母、私、息子、孫とお世話になっており、町田第三小の跡地に対しては大きな希望抱いているため、そのあたりをよろしく願いしたい。

委員

私たち保護者の役目は、本町田ひなた小に町田第三小が合流した際に、町田第三小の保護者が戸惑わないように、今の本町田ひなた小と町田第三小がスムーズに歩み寄れるようにしていくということだと思っている。

また、通学路問題は重要な課題だと思っている。なかよし門のところに立たせていただいたが、左右と後方から子どもが来て信号を渡るが、横断歩道のボタンを押しながら、子どもの安全を見守らなくてはならない。どれだけ大変な思いをして立ってくださっていたのかというのを改めて痛感し、一人で担うことが重荷だと感じた。やはり、子どもたちの安全は保護者が守るという、保護者の意識が大切だと思っている。

町田第三小での取組としては、旗振りを随時募集し、「今日は10分だけ立てる」、「子どもと一緒に登校しつつ旗振りをする」など、柔軟に協力できる体制にしようと思っている。旗振りに参加したいが、どのようにすべきかわからない保護者の方は大勢いると思うため、そういうところを保護者代表として情報を周知出来れば、子どもたちがもう少し楽しく学校にいける環境をつくってあげられるのではと思っている。

委員

子どもが2人おり、下の子は1年生になる時期にこの統合を迎え、子どもの学校生活はとても楽しいものになり、すぐ慣れるとは思っている。一方で保護者の立場から統合を迎えるにあたって考えることがある。今まで、「この学校ではこうしてきた」ということがあるかと思うが、それを保護者同士で話す機会が少ないと思うため、保護者が学校にどのように関わっていけるのかを懸念している。

加えて、学区の境に自宅があり、この夏の暑い日の通学路、子どもが30分歩いて安全に登下校できるのかということも心配ではある。

委員

前回もお話しさせていただいたが、子どもの順応性は素晴らしく、親のほうが不安や心配を抱えているのに、子どもたちは希望しかないということを保護者として感じている。

私は委員をして、様々な話を聞いており、統合について理解できているが、残念ながら、周りの保護者の方の中には、不安を抱えている方や誤解をしている方もおり、周知に課題を感じている。周りの保護者に周知できることはお話しているが、まだまだ伝わらない部分もあるため、私も微力ながら力になれたらと思っている。

委員

親としては心配していたが、娘は楽しそうに学校に通っている。本町田東小の子と違いを感じたのは、クロムブックのタッチペンを本町田東小の子が使っていたこと。娘も家ではタッチペンを使っており、学校に持って行っていいのか悩んでいた中で、本町田東小の子たちが使っているのを見て、学校にタッチペンを持っていくようになった。小さいことだけれども、娘の世界が広がっていると思った。

放課後にうちに遊びに来てくれる子は、やはり家の近い子。今はまだ3年生のため、親同士で連絡を取り合えないと不安があり、本町田東小の子と遊びたいと言われるとどうすることもできない。放課後の遊びの世界の狭さにジレンマを感じている。学校に遠くからみんなが集まってくると、放課後の遊び方や保護者同士の関係構築についても考える。子どもは楽しそうに学校に通っているのも、保護者としても希望はたくさん持っている。

委員

私の子どもはサッカーをやるが、本町田東小からお友達がいっぱい来て、うまい子がいっぱいいたと言って、目をきらきらさせていた。人が増えて世界が広がっていると、親としても実感している。

下の子が年長で、滝の沢に家があり、新校舎に移った際にとても遠い。3年生で移るが、子どもの足で40分ぐらいはかかると思う。来年1年生になるが、兄と一緒に本町田ひなた小に通わせるか、転校することを考えて、1年生のタイミングで、別々になるけれども違うところに通わせるか、友達が多い忠生第三小に通わせるのがベストなのかというのを、保護者の今の立場、情報量で決めなければいけないというのを、周りの同じ下の子の学年の保護者はみんな思っている。それをどこに問い合わせ、どう情報を得ていいのかが分からない。市に確認したりしている方が多いが、手探り過ぎるところがある。この協議会があるということを知っている方は知っているが、知らない人は全く知らない。どうやって自分が情報を得ていくかということになると思うが、保護者に向けての情報発信について、今後の動きに期待したいと思っている。

委員

私は本町田東小時代に3年間、PTA会長として活動してきた。活動の中で強く感じたのは、もはやPTAというものが保護者にとって憎しみの対象ですらあるということ。この事態をどう好転させたらいいのかということを考えて3年間過ごしていた。

先日のひなたまつりで子どもたちが元の学校はどこか関係ないぐらいに一体化しており、共に先生と一緒に楽しんでいる姿を見て感銘を受けた。保護者も本来そうあるべきではないかと思っている。ひなた小サポーターズは徐々に骨格を固めている段階で、皆様にとってはスピードが遅いと思われると思うが、急激に固めてしまうと、それに反発する感情も出てきてしまうと思っている。なるべく多くの保護者がより積極的に参加していただけるような組織づくりをするために、たくさんの方の意見を聞きながら、まとめている段階となっている。

正式な発足は9月か10月頃を予定しているが、それ以降は保護者が、積極的に一緒にやりたいと思ってもらえるような企画や組織づくりをして今後につなげていきたいと思っている。

委員

私も今、皆様方のお話を聞いて、特に本町田ひなた小の保護者の方々から子どもが楽しそうに学校に行っているということを聞けることが本当に一番うれしい。子どもたちもそうだが、教職員のほうも旧本町田東小の先生、旧本町田小の先生、また新しく異動してこられた先生がミックスして、本町田東小ではこうだった、本町田

小ではこうだったということではなく、新しくできた学校なのだからみんなでこれを作っていくんだ、子どもたちを育てていくんだ、そういうスタンスで今のところスタートできていると思っている。

統合するに当たって、旧本町田小で副校長をしていたが、統合は大変だと感じる。保護者の皆様が不安に感じるのも当然だと思う。例えば前年度であれば、急遽4月に、統合する本町田東小の保護者の方々向けに学校公開を行った。今度、2028年に旧本町田東小のほうに移転するが、その前段階にも、町田第三小の保護者の方々にも、本町田ひなた小はこういうところというふうに見ていただくような機会を設けていくべきだと思う。そういったちょっとしたノウハウがあるため、それを生かしながら、不安はどう頑張ってもゼロにはならないと思うが、すこしでも安心してもらえるようにしないといけないと思っている。

委員

通学時間中の自転車については、自転車ナビマークの上を走っているが、目の前の信号が赤になると歩道に乗って、そのまま突き抜けていく。注意したいが、自転車はずっと通り過ぎてしまい、子どもは自転車を気をつけているわけでもない。ここは、警察の方にも来ていただいて、今後検討にするとということになっている。自転車に乗っているのは高校生が多く、ルールと安全性について、警察にも考えてもらいたいと思う。

放課後の遊びについては、親御さん同士がどのように連絡を取り合えるようになるかは、昔のように連絡網はないため、今後の保護者会や学校公開のときに、親御さん同士の輪を広げていくということになるかと思っている。

P T Aやひなサポについては、私自身も協力するので頑張ってもらいたい。

学区域のことは事務局でバス会社などにいろいろ交渉してやっていただきたい。滝の沢あたりは確かに遠い。滝の沢はバスの本数が多いが、旧本町田東小の校舎まで通うとなると、この暑い中で1年生の体力はどこまで続くのか不安に感じる。何とか解決していく方法を、この協議会を中心に情報発信して見つけていきたいと思う。

地域の方々の協力には非常に感謝している。これは言い訳になるが、教員も本町田小から3分の1、本町田東小から3分の1、外から3分の1の人員配置となっている。普通の学校というのは、元いたところにほとんどの先生がいて、学校の伝統や慣習を伝えていくのが通常であるが、統合はゼロからのスタートで先生たちも必死にやっている。そのため、地域の方との連携というところが後手になっている。地域の方々のご協力を否定している訳でもなく、閉じている訳でもないということをご理解いただきたい。今後は、統合前はこういうことをやっていたということを教えていただき、子どもたちのためにご協力いただけるとありがたいと思っている。

委員

今井谷戸のバス停からバスに乗って通う子どもたちが、十数人いる。その中の低学年くらいの子も2人が日によってバスに乗ったり、乗らずに歩いて学校に行ったりする。ご家庭の教育方針なのか、費用の問題なのかはわからないが、暑い日に歩いて行くのは体力面でも心配。これは2人だけであるが、本町田ひなた小が開校してから3か月が過ぎているため、どういう事情なのかをというところも含め調査し

てほしい。

私たちも、この炎天下で約1時間バス停に立っており、第2便の8時8分発のバスに乗る子どもは3～4人程度。その子たちがバスに乗るまで立っていないといけないということもあるため、できるだけ第1便のバスに乗るように指導していただきたい。

委員 全体で約40人の子どもたちが、バスで通学している。8時8分発のバスが8時14分に着くという予定で、登校時刻の8時10分から20分に合うため、その前の第1便に乗るように指導するのは難しい。その8時14分着予定のバスが大体5分遅れるため、朝会などがある際は駆け足状態となり、第1便に乗る児童が増えてきている。しかし、第1便に乗ると7時50分には着いてしまうため、その辺りが悩ましい。本当はバスの時刻表を変えて欲しいと思っている。

新たな学校推進課 一般の方も利用するのが路線バスのため、時刻表を変えるのは難しい。8時14分に着くというのも、協議会やその前の基本計画検討会の中で様々なご意見をいただいて、本来はもっと遅くに着くバスを早めていただいたりしている。今後も、更にお願ひできないかという話は継続的にバス会社としながら、子どもたちが使いやすいようにしていけるように協議はしていきたいと思っている。

委員 先程、朝遊びという話がでたが、子どもたちの登校がどんどん早くなるのではないかな。

委員 これは、あくまでもバスで7時50分に着く子どもたちのことが中心の話。運動委員会を中心に子どもたちが話し合い、7時50分から8時10分までは朝遊びの時間と決めている。

委員 熱中症警戒アラートが出ると、子どもたちは外遊びができないので、いいアイデアだと思ったが、先生方は業務時間外ではないのか。

委員 私1人が今、勤務時間をずらして早く来ている。しかし、私1人しかいないので目は十分届かない。そのため、心配な人は来させないように言っている。もともと旧本町田小にいた子どもであっても、この子たちは駄目というのは平等ではないため、私1人の目しか届かないが、それでも良いという子どもは7時50分から朝遊びできる形にしている。

（2）町田市新たな学校づくり推進基本計画（一部修正）について

新たな学校推進課 （資料3-2説明）

委員 統合年度の修正が多く入っているが、子どもたちへの影響はどうなるのか。計画が変更になる度に保護者は不安になっている。統廃合がなくなるなど、そういううわさもたくさん出ている、事情は分かるが、何度も計画を変えるというのはいかなものかと思う。

新たな学校推進課 基本的には、今回の修正は計画が後ろ倒しになるところが多く、建物を建てたり、検討したりする期間も長くなっているため、統合の時期も後ろになるということが

多い。そういう意味では、お子さんが何年生のときに該当するかが変わってしまうところがあり、申し訳ないと思っている。

周知の仕方についてだが、一部修正の内容については、今は町内会や自治会、保育園、幼稚園、民生委員、青少年健全育成委員会などに説明や資料配布をしている。当然、学校を通じて在校生の保護者の方々には伝えており、ホームページでもお伝えをさせていただいている。

皆様から、周知が行き届いていないところや誤った情報が周知されているなどの情報をいただければ、我々もそうした方々への説明の機会を設けさせていただき、周知を図っていきたいと思う。

何度も計画変更しないで欲しいというところは当然理解しているが、一方で社会環境が目まぐるしく変化しており、先々を見通すことが難しい時代になってきている。そういった中であっても着実に進めていくために、一定の区切りの中で、改めて児童数の確認や社会状況を鑑みながら、どうあるべきなのかを見直すタイミングをこれから持っていきたいと考えているため、その点をご理解いただきたい。

委員 該当年度の保護者の方は相当な不安を抱えると思う。そちらのケアをお願いしたい。

委員 前回の計画の約2倍の校舎整備費がかかるということだが、市としての予算は確保できているということで良いのか。

新たな学校推進課 今回の計画の見直しにあたり、整備費が上がる部分を踏まえ、支出の平準化を図れるようにしている。そういった中で予算を確保しながら取り組んでいきたいと考えている。

（３）本町田地区・南成瀬地区のＰＦＩ手法による学校整備について

新たな学校推進課 （資料３－３説明）

委員 今日の議題とは外れるが、昨今、とても暑い日が続いており。学校のプールが中止されている。夏休みのプールも心配。新設校のプールは、どのような設備になっているのか、室内プールなのかどうか説明してほしい。

新たな学校推進課 プールについては基本的に建物の中で上層階に入れていく計画であり、完全な温水プールではないが、加温ができるものになる予定である。今までプールが使える期間は短期間であったが、室内になることで、使える期間を長くできるように計画を進めている。

３ 次回開催予定

新設学校推進課 第１２回基本計画推進協議会

２０２５年１０月３１日（金曜日） ９時３０分 町田第三小学校会場